



CITY OF NAGASAKI

「第25回核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」が開催されるにあたり、長崎市民を代表してメッセージをお送りします。

皆様におかれましては、医師・医学者の立場で再び被爆者を生み出さないよう平和運動に継続して取組まれておられることに心より敬意を表します。

1945年8月9日午前11時2分、長崎は一発の原子爆弾により壊滅的な被害を受け、7万4千人の尊い生命が奪われました。死をまぬがれた7万5千人の方々も心身に癒すことのできない傷を負い、被爆から69年目を迎える現在も多くの方々放射線の後障害に苦しんでいます。

被爆者をはじめとする長崎市民は、原爆による悲惨な体験を世界の誰にも体験させたくないという思いで、「核兵器のない世界」の実現を訴え続けてきましたが、世界には未だ1万6千発以上の核弾頭が存在しています。

このような中、国際社会では、核兵器の非人道性に焦点を当て、核兵器を国際法上禁止しようとする動きが高まっています。長崎市としても、NGOや非核保有国との連携を深めるなど、これまで以上に核兵器廃絶に向けた国際世論の喚起に努めていきたいと考えています。

核兵器のもたらす危険性は、決して被爆地だけの過去の問題ではなく、世界が抱える今と未来の問題です。長崎市は、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて、今後とも皆様とともに歩み続けてまいりたいと考えておりますので、お力添えをお願いいたします。

最後に、「第25回核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」のご成功と、皆様の今後ますますのご健勝とご活躍を心よりお祈りいたします。

平成26年9月17日

長崎市長 田上 富久